

第300回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日時 平成26年4月8日(火) 11:50~13:00
2. 場所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix モーニング ラジラ
[放送日時] 平成26年4月4日(金) 7:40~10:51
[出演者] 高橋正純

4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 委員 角田哲康
委員 山本りさ
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
放送本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 委員長、副委員長の選任
- 2013年度決算見込みについて
- 2014年度予算について
- 2014年度「ラジオって、あったかいね」キャンペーンについて
- 「K-mix データブック」制作について
- AM局のFM転向の動向について

6. 番組審議

[対象番組] K-mix モーニング ラジラ

[放送日時] 平成26年4月4日(金) 7:28~10:51

[番組内容] 政治、経済、スポーツと、朝にマストなニュースはもちろん、音楽チャートや新商品など、より「使える」インフォメーションを高橋正純が伝える3時間30分。

[聴取・合評での主な意見]

角田委員

昨年の番組スタート当初と比較してドタバタ感がなくなり、随分落ち着いてきた。リスナーの耳も慣れてきたのではないか。ニュースの解説のパートだが、もう少ししゃべりのトーンを下げた方が聞きやすいと思う。現状だとサ行の音が耳に刺さり、聴きにくい。コメントの内容だが、テレビに出演する評論家のような解説をする必要はない。彼ならでは目線で解説して欲しい。今のコメントでは背伸びしているように感じる。現実感や生活感をどう表現していくのかをスタッフも含め考えてほしい。「マスタートーク」のコーナー

では、そこへ行ってみたくなる気持ちにさせるための材料をもっと提供して欲しいと思う。花の風景だったら、その景色や色を感じさせなければだめだ。「フライデーストーリー」のコーナーは、朗読するトーンをもう少し調整した方がいい。番組全体として聴きやすくなったが、逆に面白味は少なくなった。朝の番組だからといって毒気をなくす必要はないのではないか。高橋さんらしさを出すのか、それとも番組らしさを出すのか、そのバランスが難しいと思うが、それはスタッフサイドの力量にかかっている。

山本委員

以前のニュースは焦っているような感じがして聴き難かったが、ニュースが頭に入ってくるようになった。ニュースに対するコメントだが、1回目は勢いがよすぎて聴き辛かったが、2回目のコメントは聴き易かった。「マスタートーク」のコーナーは、以前は高橋さんがしつこい感じがしたが、それがなくなってきた。また、相手の方の説明に対して、高橋さんが内容の確認をするといった丁寧さがよい。相手の方に興味を持って質問しているのもよい。「フライデーストーリー」の表現の仕方は工夫の余地がある。声のトーンをもっと子供っぽく変えてもいいのではないか。

出口委員長

長い番組なので、それぞれのコーナーの内容に合わせて「顔」を変えていき、リスナーがイメージしやすいような作りをしていかななくてはいけないと思う。ニュースは、シャープさや張りがあって、正確に伝えることが求められるが、高橋さんにはもっと張りがあった方がよい。語尾が流れるように聞こえるのもよくない。「マスタートーク」では、もっとリスナーがイメージできる要素が欲しい。全体的に朝の番組なので、爽快さと躍動感が欲しい高橋さんや K-mix に限ったことではないが、リスナーがイメージしやすいしゃべりができる人が少なくなっている。リスナーは自分でイメージできからこその内容を記憶に残すことができるのだと思う。高橋さんには、例えるなら「ジャズを演奏していたアーティストが、クラシックを始めて、それがそれまでのクラシックとは違う演奏だが、面白く素晴らしい」という感じになってもらいたい。

次回開催日 平成 26 年 5 月 13 日（火） 11:50～13:30 を予定

以上

番組審議会委員長

出口 泰 規